

## 【3-4】 防犯・防災・交通安全対策・安心な消費生活

### 現況と課題

防犯については、過疎化の進行やライフスタイルの多様化により、身近な生活の場での犯罪の発生が増加している状況にあります。本町では防犯灯の設置補助、防犯パトロールの実施など地域ぐるみで活動に努めてきたところであり、今後も警察や京極町地域安全協会等の関係機関と連携を強化し、地域における防犯意識の向上を図ることが重要です。

全国各地で発生している様々な大規模災害の教訓を踏まえ、防災拠点や避難路の整備、公共施設の非常用電源の確保など災害に強いインフラ整備が求められています。防災行政無線を使用することにより迅速かつ的確に災害情報などを提供することはもとより、防災訓練を定期的実施することで町民の防災意識の向上、災害への備えを万全にできる体制づくりが必要です。

本町の火災は減少傾向にあるものの、近年の生活様式の変化により、火災原因は電気系統や薪ストーブなど多様化しています。このような火災発生を未然に防止し、被害を最小限に食い止めるために、啓発活動を継続するほか、消防施設・設備の充実及び救急知識・救命対策の向上を図る必要があります。

交通安全対策については、高齢化の進展に伴い、高齢者ドライバーが引き起こす交通事故の増大が予想されており、若者の事故対策とともに大きな課題となっています。

消費生活は、情報化、ネット社会が進む中で巧妙な特殊詐欺が増加しており、高齢者だけでなく若年層においても被害に見舞われるケースが見受けられます。このような被害を未然に防止するため、関係機関と連携し、正しい知識を習得できるような取組を推進する必要があります。

### 【刑法犯認知件数・交通事故発生件数の推移】

	H28	H29	H30	R1	R2
刑法犯認知件数(件)	14	9	3	10	2
交通事故発生件数(件)	63	68	76	74	54

**取り組む施策**

災害時においては、地域との協働により、支援の必要な高齢者や障がい者等を把握するとともに、避難時に対応ができる体制づくりを進めていきます。また、公共施設の非常用電源の確保や生活必需品、衛生環境の整備など、避難所の機能強化を図ります。定期的な防災訓練を実施することで町民の防災意識を向上させ、各種災害のタイムラインを作成し、役場内部や各関係機関の即応体制を強化します。さらに、防災行政無線での放送内容の充実を図り、誰もが聞きやすく、理解しやすい放送ができるよう取り組みます。

火災被害を最小限に食い止めるための住宅用火災警報器の点検・更新を含めた予防啓発活動に、積極的に取り組みます。また、急増する救急需要に対応するため、救急隊員の資質向上と、町民に対してバイスタンダーとしての知識・技術の普及啓発に取り組むほか、重要な役割を担う消防団入団を促進し、組織の充実と活性化を目指します。

町民の安全を図るため、防犯灯の設置や、歩道・ガードレール・カーブミラーなどの交通安全設備の整備及び維持管理を行い、安全な道路環境の充実を図ります。また、防犯パトロール強化の日においては、町民・警察・京極町地域安全協会などと協力して、地域ぐるみで防犯活動の充実を図るとともに、犯罪発生情報や不審者情報などの迅速な情報発信に努めます。

本町で発生した交通事故件数は減少傾向にありますが、今後も交通事故を防止するために、幼児から高齢者まで幅広い年代を対象とした交通安全学習や、交通ルールの遵守徹底に向け、関係機関と連携し取り組みます。

消費者保護の推進については、羊蹄山麓7町村で構成する「ようてい地域消費者生活相談窓口運営協議会」や、町内団体で構成する「京極町消費生活相談ネットワーク会議」と連携し、相談員による講習会などの啓発活動を実施し、消費者トラブルを未然に防ぐ取組を推進します。

- ・災害時即応体制の強化
- ・防災意識の高揚
- ・災害時要支援者対策の推進
- ・指定避難所の機能強化
- ・災害時の情報伝達手段の強化
- ・消防団への加入促進
- ・救急意識の高揚
- ・まちぐるみによる防犯活動の促進
- ・防犯設備の整備
- ・防犯に関する情報提供と意識啓発
- ・交通安全意識の普及・啓発

バイスタンダー：  
けが人や急病人  
が発生した場合  
に、その付近に居  
合わせた人のこ  
と

- ・安全な道路環境の整備
- ・通学路の安全確保
- ・消費者保護の推進

#### 関連する計画

- ・京極町国土強靱化地域計画
- ・京極町地域防災計画

#### 関連 SDGs



## 基本目標4 すこやかに暮らしつづけるまちづくり(健康・福祉・医療・子育て)

### 【KPI 目標値】

指標名		現状値	目標値
健康寿命		80.0歳 (2020年度)	増加
特定健診受診率		31.4% (2020年度)	35.0%
ミニドック検診結果説明会参加率		83.3% (2020年度)	90.0%
がん検診受診率	胃がん	17.0% (2020年度)	20.0%
	肺がん	10.6% (2020年度)	20.0%
	大腸がん	10.9% (2020年度)	20.0%
	子宮がん	14.4% (2020年度)	20.0%
	乳がん	12.3% (2020年度)	20.0%
保育園利用希望者受入率		90% (2021年度)	100%
学童保育利用希望者受入率		100% (2021年度)	100%
出生数		15名 (2016年～2020年の平均値)	15名
合計特殊出生率		1.45 (2017年)	1.8
乳幼児健診受診率		96.6% (2020年度)	98.0%
医療従事者研修参加回数		2回	5回
医療従事者数		5人	現状値維持



## 【4-1】健康づくりの推進

### 現況と課題

健康寿命が延伸し、住み慣れた地域でいつまでも安心した生活を継続できるように、全ライフステージに応じた健康づくりが求められています。

高齢化が進む中、医学の進歩、生活水準の向上により疾病構造が変化しており、現在本町においては、がんや心疾患、脳血管疾患等生活習慣病による死亡割合が約5割を占めています。がんや生活習慣病による死亡が多い一方、がん検診と特定健診の受診率が低いため、受診率を向上させる必要があります。

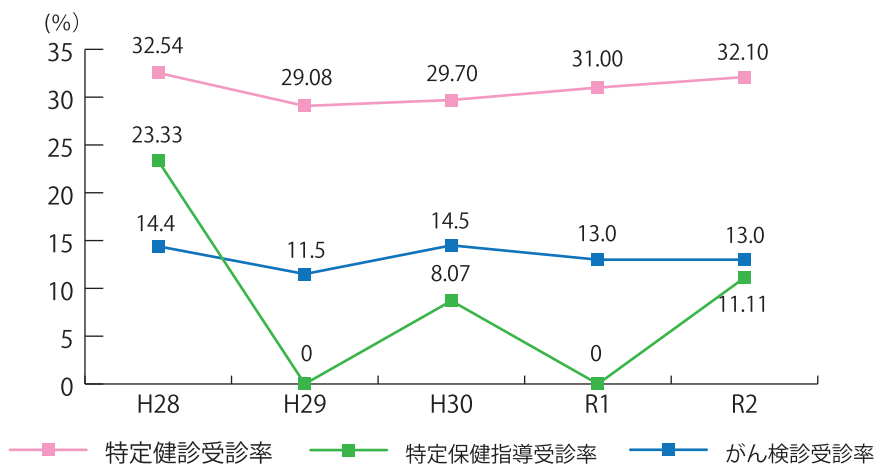
個人の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、食生活や身体活動などの生活習慣が大きく変化しています。生活習慣病の予防には、日常の運動や食生活の改善など、町民一人ひとりの自主的な健康づくりが重要であり、動機づけにとどまらず、具体的な行動へとつなげていくことが重要です。

妊娠期・乳幼児期における健康づくりは、その後のライフステージにおける健康づくりの基礎となります。さらに多様化する子育ての課題に対応し、安心して妊娠・出産・育児ができる環境づくりが必要です。

また、社会構造の変化及び複雑化等により、強いストレスを感じる人も多くなってきており、身体だけではなく、こころの健康づくりを社会全体で推進していくことも必要です。

近年、自然災害や予期せぬ感染症等の発生がみられており、健康危機への対策が求められています。

### 【特定健診・特定保健指導・がん検診受診率の推移】



### 取り組む施策

自分らしい生活を生涯にわたり送ることができるよう、ライフステージに応じた健康に関する正しい知識の普及と健康に対する意識啓発を図ります。併せて、健康診査・各種検診の受診率向上を図り、疾病の予防や早期発見、重症化予防の推進を行います。

安心・安全な妊娠・出産・育児ができる環境を実現するため、個々の状況に応じた子育て支援プランを作成し、相談支援体制の構築を図ります。

こころの健康づくりの推進には、悩んでいる人のサインに気づき、寄り添い、必要な支援につなげ見守ることが大切です。ゲートキーパーの養成を通じて、町民・関係機関と連携した取組を進めます。

また、自然災害や予期せぬ感染症等の発生を想定した防災訓練の実施を含め、体制整備を進めます。

**ゲートキーパー：**  
自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を行うことができる人のこと。「命の門番」とも位置付けられる人のこと

**健康危機管理対策：**  
自然災害、感染症、食中毒、事故、テロ等により健康被害が発生・拡大する可能性がある場合に、住民の健康を守るための対応を行うこと

- ・健康寿命の延伸に向けた取り組み
- ・子育て世代への包括的な事業の実施
- ・自殺予防対策の強化
- ・健康危機管理対策の推進

### 関連する計画

- ・京極町健康づくり推進計画
- ・京極町保健事業実施計画（データヘルス計画）
- ・京極町食育推進計画

### 関連 SDGs

